

04 ドゥオーモ広場

地下鉄の出口から地上にでると、突然に巨大なミラノの心臓であるドゥオーモ広場が現れます。広場はいつも人が溢れていて、いたるところで羽ばたく鳩に取り込まれている観光客の写真の背景になっています。

今日我々の前にある広場は19世紀に形成された形で、ポローニャのエンジニア、ジュセッペ・メンゴーニの設計によるものです。この大掛かりな工事は1865年にスタートし、この場所にあったレベッキーノと呼ばれた多数の住宅はこの時にすべて撤去されました。同じ運命は15世紀の建物であるルネッサンス様式のロジヤ「コペルト・デル・フィジーニ」もたどりました。この場所と同じくメンゴーニの設計による、ヴィットリオ・エマヌエル2世のガレリアの凱旋門が建設されたためです。

広場の長い側である北側および南側にあるアーケードのある堂々たる建物も、西側でドゥオーモに面する建物であるガツリとローサの家も1870年代に建てられたものです。一方、広場のほぼ中央にあるエルコーレ・ローサによるヴィットリオ・エマヌエル2世のブロンズ騎馬像は1896年に設置されました。

また、広場南側にあるアレンガリオはファシスト時代の1939年に建築家ポルタルッピ、マジストレッティ、グリフィーニとムツィオの設計で建設工事が始まりましたが第二次世界大戦中の爆撃により、完成したのはようやく1956年になってからのことです。長い間ツアーリストオフィスの建物として使われた後、今日では重要なミュージアムとして改修される準備が進んでいます。

なお、ツアーリストオフィスは、広場南側のアーケードの地下、ミラノで最初の「パブリック・バス」の「コビアンキ」のあった場所に移転しました。かつてはデラックスなビューティ・サロンであったコビアンキは全面改装されましたが、リバティとデコ様式の間という建築様式自体は変化しておらず、この美しいエントランスはその典型例です。

しかしこの広場のある場所の歴史は19世紀より以前に、いいえドゥオーモの建設より前に遡り、ミラノの町自体の歴史と密接なつながりを持っているのです。実に紀元前4世紀に、ガリア人のケルト部族が新都市建設のためにイタリアに到達した時に、神のお告げにしたがってまさにこの場所を選び、ここにペリサマの月の女神の神殿を建てたのでした。

その2世紀ほど後に、まさにこの場所に、古代ローマ人がミネルヴァ神殿を建立しました。そしてさらにこの場所に、西暦4世紀にサン・ジョヴァンニ・アッレ・フォンティ洗礼堂とサンタ・テクラ小教会が、現在の広場のほぼ中心部に建てられたのです。この二つの建物に向かいあう形で、現在のドゥオーモのある場所に、9世紀にサンタ・マリア・マッジョーレ教会とサント・ステーファノ洗礼堂が建てられました。そしてついに1386年、ドゥオーモ建設という終わりのない冒険の歴史が始まったのです。

しかし建設中の建物の右側にはすでにもっと古い建物が建っていました。市役所を置くために中世の時代にできた建物であり、ミラノ市役所の最初の建物であり、その後はトツリアーニ家、ヴィスコンティ家、スフォルザ家などミラノ領主のものとなりました。その後幾度か修復や修正の手が加えられた後、オーストリア皇帝により、1772年にドゥオーモ広場は現在の形に整備され、建築家ピエルマリニに委嘱されましたが、彼はこの機会に正面小広場も設けました。

イタリア統一とともにこの建物は王宮となり、現在は、国際的な美術展を継続的に開催するとともに、ロンバルディア州の文化・建築財保護局事務所、市立現代美術館が置かれています。

Itinerary planned by the
PROVINCIAL AUTHORITY OF MILAN
The guide is available via bluetooth from the Milan
Tourist Office – Piazza Duomo 19/A,
in Italian, English and Japanese versions